# 地域環境保全功労者功績内容等

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 北海道 | 釧路自然保護協会<br>くしろしぜんほごきょうかい<br><br>代表　高山　末吉<br>会員数34名 | 当協会は、長い間住民にとって役に立たないものと考えられてきた釧路湿原の重要性を認識し、無秩序な開発に歯止めをかけようという運動を始めた団体であり、この保護運動が後の釧路湿原のラムサール条約登録や国立公園化につながっているということができる。<br>しかしながら、釧路湿原がラムサール登録湿地・国立公園の指定を受け、湿原の生態系の重要性が認識された当時はバブル経済の時期でもあり、各種保護指定が湿原範囲にとどまって周辺の丘陵地を十分に含んでいなかったことから、湿原周辺ではゴルフ場造成などのリゾート開発計画が目白押しとなった。そこで、当協会は、湿原周辺のゴルフ場造成及びリゾート開発に対する規制ガイドラインを関係機関に送付するなど、湿原と周辺丘陵地の環境保全に取り組み、流域を単位とする生態系保全へと展開する後押しをしている。<br>近年では、釧路湿原の東側の一画を当協会の環境保全指定地としてビオトープを創造し、毎年広葉樹の植栽やカエル・トンボ・ホタルなどの生き物が生息・繁殖できる池の造成などを通じて、釧路湿原の環境保全に多大な貢献をしている。<br>一方、身近な自然環境の保全として、当協会は、釧路市大楽毛海岸砂丘にわずかに残されたハマナス群落を中心とした原生花園の復元の推進のほか、多くの水鳥が生息し、ヒブナ生息地として国の天然記念物にも指定されている春採湖の水質浄化や湖周辺の森の復元を訴えながら広葉樹を主体とした森づくりに取り組んでいる。<br>これら身近な自然環境の保全は、市民が自然環境について学習する場の提供にも繋がっており、大楽毛海岸原生花園の観察会、大楽毛海岸ハマナス植栽、武佐の森市民観察会などの行事には、多数の市民が参加し、普及啓発のよい機会となっている。<br>このようなことから、当協会の自然環境の保全に対するその類まれなる高い意識と多大なる実績は、他に替えがたいものであり、当協会の熱意と活動に対し、市として深甚なる敬意と感謝の念に堪えないものである。 |
| 岩手県 | 菅原　省司<br>すがわら　しょうじ<br><br>宮古市環境審議会　会長 | 日本雪氷学会、日本山岳会、日本極地研究振興会などの会員として環境保全活動に取り組むほか、日本大学グリーンランド遠征隊(昭和43年)、日本大学北極点遠征隊(昭和53年)、和泉雅子北極点遠征隊(平成元年)などに参加した体験を基に、地球環境問題に取り組んでいる。これらの体験と知識を生かし、岩手県環境アドバイザー(平成6年)、環境省環境カウンセラー(平成9年)、岩手県地球温暖化防止活動推進員(平成13年)に就任し、自然環境のすばらしさや悪化しつつある地球環境の現況などについて講演活動を行っている。<br>また、地域では、宮古市環境審議会会長(平成18年)、宮古市地球温暖化対策地域協議会会長(平成19年)に就任して地域の環境対策に尽力しているほか、山のカルチャースクール、三陸段丘トレッキングなどを主宰し、市民が身近な自然に触れる機会を創出している。 |
| 岩手県 | 日野沢森林愛護少年団<br>ひのさわしんりんあいごしょうねんだん<br><br>会長　二ツ神 一洋<br>構成員23名 | 平成2年に団体を結成し、学校林「みんなの森」の植樹、整備を行い、日野沢地区の植物調査を始めた。平成7年からは清流を棲みかとするハナカジカの生息調査を開始し、平成10年にはハナカジカの人工孵化に成功した。全国でもあまり例のない保護活動のため、水温管理や稚魚のえさの選定などに試行錯誤を重ねたが、ハナカジカの卵の採卵及び人工孵化、稚魚の給餌及び放流、生息調査という一連の保護活動を継続している。また、ハナカジカの生息環境を維持するため河川周辺の環境美化活動にも取組んでいる。<br>平成14年からは「こどもエコクラブ」に加入し、より広い視野で環境について考え、活動を続けている。<br>希少なハナカジカを通して、地域が一体となって環境保護や環境美化活動等を取り組んでいることが評価され、岩手県が行っている教育振興運動の実践事例のひとつとなっている。また、地域の不法投棄物撤去のきっかけになるなど地域への波及効果は大きく、県内でも知られる活動になっており、評価に値する。 |
| 秋田県 | 菅原　拓男<br>すがわら　たくお<br><br>秋田大学名誉教授<br>秋田市環境審議会会長 | 長年にわたり、本県の公害防止対策、廃棄物対策、地球温暖化防止対策、循環型社会形成の推進など、幅広く環境保全行政の推進に大いに貢献をしている。<br>平成3年から秋田市公害対策審議会(現秋田市環境審議会)委員として、平成15年11月から同会副会長、平成19年11月からは同会会長として、専門的な見地からの審議や、同市における環境施策の答申などに尽力されている。<br>また、平成10年7月からは秋田県廃棄物処理施設技術専門委員会会長として廃棄物処理施設の調査・審議や、同会の能代産業廃棄物処理センターに係る環境保全対策部会長として、山積する課題の解決に向けて精励されている。<br>加えて、秋田県地球温暖化対策地域推進計画策定検討委員会座長や秋田県循環型社会形成推進基本計画の有識者検討委員会座長として、それぞれの計画をとりまとめているほか、ストップ・ザ・温暖化あきた県民会議の副会長として、県民・事業者・行政の協働による地球温暖化対策の推進に、率先して取り組まれている。<br>なお、平成15年度からは他の模範となる環境保全活動を表彰する「秋田県環境大賞(県知事表彰)」の選考委員として、環境保全活動の推進にも寄与している。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 福島県 | 福島市立松川小学校<br>ふくしましりつまつかわしょうがっこう<br><br>校長　長尾　一夫<br>児童533名　教職員36名 | 【活動状況】<br>・児童会運営委員会による学区内のゴミ拾い　　平成9年から継続実施(年間5回程度実施)<br>・各学年学級活動による計画的な地域公園施設(土合山公園)や学区の清掃活動<br>平成9年から継続実施(3学年を中心に年間延べ10回程度実施)<br>・各学年の生活科、総合的な学習の時間における地域を題材とした環境学習とボランティア活動<br>平成13年から継続実施(各学年年間3回延べ20回程度実施)<br>【活動地域の範囲】<br>・松川小学校周辺、土合山公園、水原川等の学区内<br>【功績の内容】<br>・全児童が様々な教育活動を通し、継続的に地域を題材とした環境学習や環境美化活動に取り組み、地域や環境問題への興味関心を高めるとともに、環境をよりよくするために自分にできることから実践しようとする奉仕への意識も高まっている。<br>また、それらの児童の地域に貢献しようとする取り組みは、地域住民から高い評価を得るとともに、地域住民の環境に対する意識の高まりが見られる。 |
| 福島県 | 郡山市立海老根小学校<br>こおりやましりつえびねしょうがっこう<br><br>校長　　鈴木　和子<br>児童25名　教職員12名 | 郡山市立海老根小学校は、学校全体として環境教育に取り組み、各学年の生活科や総合学習を中心に地域の自然に親しむ活動を多く取り入れている。また、子ども葉っぱ調査隊や酸性雨調査などの地域の環境調査や学区内のクリーン作戦(ごみ拾い)の実施、福島議定書へ継続的に参加するなど、永年にわたり地域環境保全活動及び、その普及啓発活動に取り組んでいる。<br>平成11年度からは、地域に伝わる「海老根和紙」を、材料の栽培、収穫からはじめ、卒業生が自ら卒業証書用の和紙を漉くまで行うなど、地域伝統工芸の継承にも力を入れている。また、米づくりや野菜づくり等を行う食糧生産体験、学校付近の自然観察会を通して、地域の自然にふれあい、周辺環境への知識・理解を深めている。これらの児童の取り組みは、学習発表会などでも地域住民へ向けて発信し,地域住民の意識も高まってきている。<br>これらの活動の成果は、壁新聞や学校ホームページなどにまとめ、「環境フェスティバル　郡山こどもエコクラブ交流会」に参加し他校の子どもたちや広く市民に向けて発表するなど、地域環境の保全に貢献している。また、その功績が認められ、17年にはうつくしまふくしま環境顕賞を受賞、19年3月には福島県代表として、こどもエコクラブ全国大会に出場するなど、他校の模範となっている。 |
| 茨城県 | 安　昌美<br>やす　まさよし<br><br>茨城県環境アドバイザー | 氏は，平成5年から，植物分類や環境教育を専門とする茨城県環境アドバイザーとして，本県の環境学習の推進に貢献し，特に自然観察会における指導者として，動植物の保護と，自然保護思想の普及に尽力している。<br>また，茨城県版レッドデータブックの作成検討委員を務めたほか，「茨城県植物誌」を共同執筆するなど,本県の希少植物の保護に貢献している。 |
| 栃木県 | 小林　進一<br>こばやし　しんいち<br><br>株式会社　小松製作所小山工場<br>総務部環境省エネG環境担当課長 | ・平成7年～栃木県経営者協会「地域環境委員会委員・副委員長」を歴任、講演や環境情報を会員企業へ提供、業界に多大な貢献。<br><br>・平成8年から「水質」・「大気」の公害防止管理者として従事。現在まで公害問題は発生していない。ゼロエミッション活動も建機業界初に達成し(平成12年)コマツグループ全体でのゼロエミッション達成に大きく貢献した。ノウハウは公開し業界に貢献大。<br>工場排水の集中監視システム・微生物処理システム等を導入し公害防止に多大な貢献をし。環境管理レベルはコマツGでトップ。<br><br>・「ISO14001(国際環境規格)をコマツ小山工場取得」小山工場の環境管理システムを整備・構築しコマツグループで初・国内建設機械業界第一号として認証を取得(1997/5)した。この活動がモデルとなりコマツの国内全工場(関連企業)の取得が実現した。<br><br>・栃木県環境保全活動支援事業の環境学習指導者に就任。ゼロエミッション活動の普及啓蒙を推進する。(平成15年～)<br><br>・「小山工業団地のゼロエミッション活動」を2003年から指導・援助し工業団地各社から発生する廃棄物は、全て資源として活用するシステムを完成した。又「産学官」連携活動として大きな成果を上げた活動であり、県内・外の団地からも注目されている。<br>視察団も多数訪れている。(第一工業団地15社で活動継続中)。活動状況がNHKにて放映された(2005/11)。<br><br>・栃木県産業環境管理協会理事を平成6年から歴任し、公益法人活動への多大な貢献をしている。<br><br>・ISO14001審査員補の資格を有し「栃木県のISO支援事業講習会講師」を平成17年・18年・19年と担当している。<br><br>・平成19年10月～栃木県環境管理ｼｽﾃﾑｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞﾘｰ会議委員・会長として、栃木県庁のISO14001認証取得を支援。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 栃木県 | 沼尾　貞亮<br>ぬまお さだすけ<br><br>社団法人栃木県産業廃棄物協会 理事 | 1 昭和50年11月、有限会社日本オイルサービスを創立(平成2年9月株式会社日本オイルサービスに組織変更)代表取締役に就任し、多種多様な産業のハードとソフト両面にわたる技術の開発、改良を行うとともに生産工程上発生する産業廃棄物処理などの業務を行い、社業を着実に進展させている。<br><br>2 環境問題において、自然を第一に考え、豊かな自然環境を取り戻すことを基本テーマにプログラムを構築し、廃棄物の発生抑制やリサイクル技術に力を注ぎ「環境保全とエンジニアリングの融合」によって環境への負荷の低減を実現するため、継続的な努力を行っている。<br><br>3 本人の科学的知識を生かした積極的な事業展開とメンテナンスの正確さ、産業廃棄物の適正処理を行う姿勢は、排出事業者や同業者等からの信頼を得ている。この姿勢は、人材育成にもいかんなく発揮され、従業員末端まで浸透し、社業の着実な発展につながっている。<br><br>4 平成3年5月から現在に至る16年の永きに亘り、協会運営の重責を果たし、多大な貢献を行っている。また、理事会や関係諸会議等に積極的に参加する他、社団法人全国産業廃棄物連合会 関東地域協議会の安全衛生委員、安全衛生促進担当者(リスクアセスメント相談委員)として、労働安全衛生に関する知識や労働災害の防止等の普及に努めるとともに、産業廃棄物処理業界の健全な発展に指導的役割を果たすなど、協会発展及び環境行政の推進に尽力した功績は大である。 |
| 群馬県 | 特定非営利活動法人　フォレストぐんま21<br>とくていひえいりかつどうほうじん　ふぉれすとぐんまにじゅういち<br><br>理事長　菊川照英<br>構成員71名 | 「フォレストぐんま21」は、平成9年11月に(社)群馬県緑化推進委員会からの「森林ボランティア」結成の呼びかけに応じて、県内一円の森林を活動領域とし、林業家等による実践型の森林ボランティアの組織として県内で最初に創設された団体である。その後、平成14年にNPO法人として認可され、、群馬県の理想の森づくりに寄与することを目的として、森の自然・生態・景観等環境を学ぶとともに、21世紀の森のあるべき姿を考えながら、森づくりに関する事業を行うなど、積極的に森林ボランティア活動を実施している組織である。<br>その活動内容は、平成9年から一貫して「安全第一、明るく、楽しく」をモットーに活動を展開し、県の委託事業として「みどり世紀の森づくり事業」や「県民参加の森づくり事業」、「すこやか森林ボランティア事業」を実施している。特に、平成15年から18年までの間に100回以上の森林整備活動を行うなど、荒廃した森林の環境整備に対する功績は顕著である。<br>学校整備として平成18年には、榛東村立榛東北小学校の校庭整備を行い、森林体験学習会を開催するとともに、県主催のフォレストリースクール事業に協力し、地域における環境教育の一躍を担っている。<br>道路障害物整備では、県道に覆い被さった支障木の伐採等を行い、道路交通の安全性確保にも積極的に貢献している。<br>公園整備事業としては、高崎市の「観音山公園」や玉村町の「水辺の森公園」等5公園の環境整備を行い、地域の環境美化に積極的に取り組んでいる。<br>また、県植樹祭やFM群馬植樹祭に協力して植樹を行うとともに、緑の募金活動にも積極的に参加し、緑化の啓蒙活動にも取り組んでいる。<br>このように「フォレストぐんま21」は森林ボランティア活動にとどまらず、森林環境教育や緑の募金活動等緑化に関する啓蒙活動にも尽力し、群馬県における森林ボランティア団体の先駆けとして積極的な活動を続けており、その姿は、県内における森林ボランティアの模範となっている。 |
| 埼玉県 | 石澤　巌<br>いしざわ　いわお<br><br>社団法人埼玉県猟友会相談役 | 長年にわたり、社団法人埼玉県猟友会役員として狩猟の適正化、鳥獣の保護に尽力するとともに、会の発展に貢献した。<br>この間、狩猟による事故の防止や狩猟技術の向上はもとより、鳥獣による生活環境、農林業被害を防止するための有害鳥獣捕獲や放鳥事業に努めるなど、鳥獣の保護管理に多大な貢献を果たしてきた。<br><br>(具体的内容)<br>・狩猟指導員及び射撃指導員を養成し、狩猟技術の向上を図り、会員の指導を徹底することにより、狩猟による事故防止、狩猟マナーの向上を図った。<br>・射撃大会及び猟犬の競技大会を開催し、狩猟技術の向上を図った。<br>・シカ、イノシシ等の鳥獣による生活環境や農林業被害を防止するため、有害鳥獣の捕獲に努めた。<br>また、クマが大量出没した平成18年の10月に寄居町の神社の木に登って降りられなくなった子グマの捕獲に、寄居町猟友会長として2日間にわたって尽力し、無事保護した。(現在、子グマは埼玉県営大宮公園の小動物園で飼育されている。)<br>・キジ、ヤマドリの保護増殖を行い、県内各地において放鳥を実施した。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 千葉県 | 白鳥　孝治<br>しらとり　こうじ<br><br>ＮＰＯ法人水環境研究所　理事 | 平成元年から17年まで千葉県環境影響評価委員会の委員及び委員長、平成4年から平成14年まで千葉県環境調整検討委員会の委員長を務め、さらに市町村においても四街道市、八千代市、野田市、白井町(現:白井市)、佐倉市、成田市等の環境審議会委員や会長の職を歴任し、環境行政の推進に貢献してきた。<br>また、平成16年からは、NPO法人水環境研究所の理事長(平成20年4月からは理事)として、湧水を中心とした千葉県印旛沼の水質・水源等の調査・研究を行うとともに、印旛沼流域水循環健全化会議に係る各種分科会(専門家会議・ワーキンググループ)の座長や委員を務め、印旛沼流域の水質環境保全に尽力している。 |
| 神奈川県 | 田澤　保男<br>たざわ　やすお<br><br>(社)神奈川県猟友会会長 | ・ 30年以上にわたり猟友会の事業に熱心かつ献身的に取り組み、猟友会の一員として、また、昭和63年からは理事、平成13年からは同会の会長として、環境保全行政に協力している。<br>・ また、平成13年から神奈川県自然環境保全審議会委員に就任し、自然環境保全全般に関する重要事項の審議に携わるなど、環境保全行政の推進に多大の貢献をしているところである。<br>・ 特に、ニホンジカにより衰退した自然植生の回復や農業被害の軽減を目的とする平成15年度からの神奈川県ニホンジカ保護管理計画及び平成19年度からの第2次神奈川県ニホンジカ保護管理計画の大きな柱となるニホンジカの管理捕獲を猟友会が担うにあたって全体を統率するなど、計画実施の中心的な役割を担っている。<br>・ また、神奈川のみならず首都圏の自然の宝庫である丹沢大山の深刻化する自然環境問題解決に向け、行政やNPO等が連携した取組みに多年にわたって参加・協力し、平成18年度からは丹沢大山の自然再生事業を統合的に進めるために設立された丹沢大山自然再生委員会の委員として自然保護・再生活動に熱心に取り組んでいる。 |
| 富山県 | 宮下　尚<br>みやした　ひさし<br><br>富山県環境審議会会長<br>（富山大学名誉教授） | 多年にわたり、富山県環境審議会委員及び富山県公害審査会委員を務め、特に、平成14年からは富山県環境審議会の会長として、富山県の環境行政の推進に貢献している。<br><br>富山県環境審議会企画専門部会の委員として、地球環境保全のための県民、事業者及び行政のそれぞれの役割や具体的な行動を定めた「富山県地球環境保全行動計画(地球にやさしいとやまプラン)」の策定や、本県における環境の保全と創造に関する基本的な計画である「富山県環境基本計画」の策定に携わった。<br><br>また、平成9年の環境影響評価法の制定を受け、富山県環境審議会企画専門部会の部会長として、富山県における環境影響評価のあり方について審議検討を行い、本県の自然環境の特徴に配慮した環境影響評価について答申するなど、本県の環境影響評価制度の構築に寄与した。<br><br>さらには、平成19年度に事業者、消費者、行政等が参加して設立された富山県レジ袋削減推進協議会の会長として、レジ袋の効果的な削減方策の検討や3者間の調整、普及・啓発等に尽力した。その結果、平成20年4月から県内の主要スーパーマーケットやクリーニング店でレジ袋の無料配布が取り止められることとなった。こうした取組みが県下全域で一斉に実施されるのは全国初であり、循環型・脱温暖化社会の構築に果たした役割は大きい。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 石川県 | 矢島　孝昭<br>やじま　たかあき<br><br>金沢大学名誉教授 | 昭和50年に金沢大学に赴任して以来32年間、多くの生態系や動植物研究者を養成するとともに、自ら先頭に立って、石川県を中心とした自然環境とその保全に関する調査研究活動を推進した。<br><br>昭和58年３月に石川県が発刊した「石川県の潮間帯ー生物の現状と人為的攪乱についてー」では、昭和56、57年の２年にわたって、県下全域の潮間帯を対象として、人為的攪乱が潮間帯の生物に与える影響について調査研究し、その成果を執筆。<br><br>昭和６２年から平成１６年までの長きにわたり、石川県の自然情報誌である「いしかわ人は自然人」（季刊、延66号）の編集長として、普及啓発に貢献。<br><br>石川の自然環境シリーズ「石川県の浅海域の生物」（平成１０年３月　石川県発行）を執筆。<br><br>石川県野生動物保護対策調査会代表として、「石川県の絶滅のおそれのある野生生物＜動物編＞」（平成１２年３月　石川県発行）を執筆・編集。<br><br>また、平成９年、ナホトカ号油流出事故に際しては、環境庁の「ナホトカ号油流出事故環境影響評価総合検討会」の委員、「ナホトカ号油流出事故による海域・海浜生物等への影響に関する検討委員会」の座長として尽力。<br><br>さらに、長年にわたり、石川県自然環境保全審議会、石川県自然史資料館基本構想策定委員会など各種委員の会長等を歴任し、また、石川県の海の自然保護センターである「のと海洋ふれあいセンター」の設立に尽力し、同センター運営協議会会長として活躍するなど、県の環境行政の推進に果たした尽力には大きなものがあり、地域の環境保全への功績は多大である。 |
| 山梨県 | 跡部　治賢<br>あとべ　じけん<br><br>自然とオオムラサキに親しむ会会長 | 昭和54年<br>「山梨国蝶オオムラサキを守る会」を発足させ、代表としてオオムラサキの保護を通じて、自然環境の保護活動(エノキ・クヌギ・コナラ等植樹、オオムラサキ乱獲阻止のためのパトロール)を積極的に展開。<br>長坂中学校のオオムラサキ有視界調査を会員らと共に指導。この結果、長坂中学校は、平成15年に野生生物保護実績発表会において環境大臣賞を受賞。<br><br>平成8年7月<br>「山梨国蝶オオムラサキを守る会」等の自然保護団体を連合させて「自然とオオムラサキに親しむ会」を設立、事務局長に就任(～平成19年)し、里山保全活動(間伐、下草刈り)や自然環境教育(オオムラサキ観察会、炭焼き教室)などの推進に尽力。「自然とオオムラサキに親しむ会」は平成19年11月に山梨県県政功績者(団体)表彰を受賞<br><br>平成10年　こどもエコクラブ「オオムラサキクラブ」の代表サポーターとして環境教育活動(河川の水質調査・ホタルの生息域調査等)に力を注ぐ。<br><br>平成12年　ホタルの上陸の研究や川の調査活動が認められ、「オオムラサキクラブ」が「コカ・コーラ環境教育賞激励賞」と「日本学生科学賞知事賞」を受賞。<br><br>平成14年6月　環境保全活動に対し「山梨県知事表彰(山梨県環境保全功績者表彰)を受賞。<br><br>平成15年　オオムラサキセンターが国立公園ふれあい推進コンクールで「特別賞」を受賞<br><br>平成17年10月　オオムラサキセンター館長として、市内の小中学生340人の調査協力を得て「ホタルマップ」を作成。<br><br>平成19年5月　北杜市内の森林環境を活かした人々の健康増進を目的に「北杜森林療法協議会」を設立し代表に就任、現在に至る。<br><br>平成19年11月　山梨県と連携して、県内の森林療法団体をネットワーク化し、「山梨森林セラピーネットワーク代表世話人」に就任。<br><br>平成20年2月　「自然とオオムラサキに親しむ会会長」に就任し、里山の台場クヌギの保存活動を始め、現在に至る。<br><br>その他、市内の小、中学校及び高校に出向き、環境教育の講師として年5～6回のペースで活動している。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 長野県 | 丸山　家一<br>まるやま　いえいち<br><br>長野市環境美化連合会副会長 | 平成7年度から、第四地区諏訪町区衛生組合長(現:第四地区諏訪町区環境美化推進会長)に就任して以来、地区衛生組織の充実強化に貢献するとともに、ごみの分別指導やごみ集積所の見回り指導を行うなど、地域の環境美化に積極的に取り組み、大きな成果を上げている。<br>平成12年度からは第四地区環境美化連合会長に、また平成17年度からは長野市環境美化連合会副会長として、地域での活動はもとより、長野市全体の環境衛生の向上や衛生組織の強化にも取り組み、その功績は大である。 |
| 長野県 | 伊那テクノバレー　リサイクルシステム研究会<br>いなてくのばれー　　りさいくるしすてむけんきゅうかい<br><br>代表　　向山　孝一<br>上下伊那の企業20社28名 | リサイクルシステム研究会では、企業の集まりであることを生かしつつ、循環型社会の構築を目指し、講習会や、企業と関係団体の意見交換の場としての交流会、さらには、優れた産業廃棄物処理施設の視察などを行なってきた。<br>また、諏訪湖から静岡県遠州灘に至る延べ213kmを流れる天竜川の下流域の方との交流により、『日本の水源地』としての自覚と責任が求められていると感じ、天竜川水系ピクニックや、天竜川水系健康診断、親子で水質調査などを毎年開催している。これらの活動は、年々参加者を増やしているだけでなく、子どもも参加できる機会にもなっており、将来にまで引継がれる環境保全の意識の啓発に大きく貢献した。<br>特に、天竜川水系健康診断については、天竜川水系31河川49箇所において、毎年、2時間おきに13回の連続観測、分析を10年間続け、昨年「10年の軌跡」として水質調査結果を一冊にまとめた。<br>さらに、INAコピー用紙循環システムでは、リサイクルシステム研究会が旗振り役となり、伊那谷の事業所と官公庁37箇所が、コピーなどに使う用紙を、回収→再生→購入と循環するシステムを整備している。<br>こうした広範囲に及ぶ環境保全活動を、企業グループが継続的かつ意欲的に行なっているという事例は珍しく、また、これらの活動は年々多くの住民を巻き込み、成果を出しており、評価に大きく値する。 |
| 岐阜県 | 特定非営利活動法人　ﾋﾟｰﾌﾟﾙｽﾞｺﾐｭﾆﾃｨ<br>とくていひえいりかつどうほうじん　ぴーぷるずこみゅにてぃ<br><br>理事長　安田　裕美子<br>構成員460名 | ＜活動内容＞<br>1. 生ゴミ収集、運搬処理<br>2. ボカシ作成、ボカシによる生ゴミ処理<br>3. 貸し農園管理・運営<br>4. 輪之内町エコドーム(資源持込分別ステーション)の管理運営(輪之内町からの委託事業)<br>5. 生ゴミ堆肥化事業啓発として、地域出前講座、生ゴミ堆肥利用野菜作り講座を開催<br>6. ぎふ地球環境塾開催<br>7. 輪之内町レジ袋有料化協議会構成メンバーとして、スーパーでのレジ袋有料化キャンペーン等町民への普及啓発活動を中心に、レジ袋有料化推進に尽力<br>8. 町内で開催される環境関連行事に対し、企画立案等の一役を担う等積極的に取り組み、地域における環境保全意識の向上に尽力 |
| 愛知県 | 芹沢　俊介<br>せりざわ　しゅんすけ<br><br>愛知教育大学教授<br>愛知県環境審議会委員 | 専門の植物分類学の知見を活かして、以下の審議会等の適正な運営に尽力され、環境保全行政の推進に尽力された。<br><br>(愛知県自然環境保全審議会)<br>平成6年2月から平成13年3月までの7年2ヶ月にわたり、愛知県自然環境保全審議会委員として、自然環境に係る基本的事項の調査、審議に貢献した。<br><br>(愛知県環境審議会)<br>平成8年8月から愛知県環境審議会委員に就任し、環境保全に関する基本的事項を調査・審議した。さらに平成16年8月からは、同審議会の自然環境保全部会長となり自然環境保全に関する専門的事項の審議を行うため部会のとりまとめに尽力している。<br><br>(愛知県環境影響評価審査会)<br>平成10年2月から平成11年6月まで、県要綱に基づく愛知県環境影響評価審査会議の構成員として、また、平成11年4月からは、県条例に基づく愛知県環境影響評価審査会委員として就任し、大規模な開発案件における環境影響評価についての審査を行っている。<br>また、平成18年9月からは、同審査会の会長代理として会のとりまとめにも尽力している。<br><br>(その他の功績)<br>平成13年9月に発行した、レッドデータブックあいち植物編の編集に携わったほか、希少野生動植物生態系保全対策調査の検討会構成員として、「里山」、「湿地」、「沿岸域」、「奥山」の各地域における植物保全の調査に尽力した。<br>また、2005年日本国際博覧会の環境影響評価手法検討委員会の委員として博覧会開催に係る植物の保全について専門的立場から尽力された。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 愛知県 | 吉田　重方<br>よしだ　しげかた<br><br>名古屋大学名誉教授<br>愛知県環境審議会委員 | 専門の土壌学の知見を活かし、以下の審議会等の適正な運営を行い、環境保全行政の推進に尽力された。<br><br>(愛知県環境審議会)<br>昭和62年2月から平成10年7月までの11年6ヶ月にわたり、愛知県公害対策審議会、愛知県環境審議会の専門委員として、土壌学にかかる専門的事項の調査審議に貢献した。<br>また、平成10年8月からは、同審議会の委員に就任し審議会の運営に貢献している。<br><br>(愛知県環境影響評価審査会)<br>平成11年4月に県条例に基づく愛知県環境影響評価審査会が設置されたときには、委員として就任し平成15年3月まで、大規模な開発案件における環境影響評価についての審査に尽力した。 |
| 兵庫県 | 特定非営利活動法人　ｺｳﾉﾄﾘ市民研究所<br>とくていひえいりかつどうほうじん　こうのとりしみんけんきゅうしょ<br><br>代表理事　上田　尚志<br>主任研究員21名　研究員70家族 | 当該団体は、豊岡盆地の生き物調査を通してコウノトリの野生復帰を市民の立場から支援しようと生き物調査、ビオトープづくり、環境学習を3つの柱として、研究員個々の活動に加え、一般会員の調査研究活動のほか、一般県民が参加する催しを実施し、人の生活を見直し、良好な環境づくりへと住民意識の醸成に取り組んでいる。<br>生き物調査は、豊岡盆地の里山、水路、河川或いはビオトープなどで年間を通じて実施し、研究成果を「豊岡盆地の生き物地図」として発表、広く活用されている。<br>また、休耕田等を活用して市民参加のビオトープづくり及び管理に中心的な役割を担い、併せてそこで生き物調査を実施することにより、コウノトリの餌場としての有効性を実証した。それがきっかけとなり県、市がコウノトリと共生する水田自然再生事業に取り組むこととなった。<br>当該団体の先導的な取組みによりコウノトリ野生復帰プロジェクトが本格的に稼働し、平成19年には、国内で43年ぶりとなる自然界でのヒナの誕生と巣立ちという野生復帰の実現に貢献した。<br>環境学習においても平成14年から水田や小川、里山において毎月「田んぼの学校」を開催し、子どもたちに身近な生き物とのふれあいやネイチャークラフト、自然を食べる会などを通じてコウノトリと共生できる環境の重要性を啓発している。 |
| 奈良県 | 木村　優<br>きむら　まさる<br><br>奈良産業大学情報学部教授 | 1995年に奈良県環境審議会委員に就任以来、2000年から環境影響評価審査部会委員、2002年には水質部会委員にも就任、水質保全の専門的な立場から指導・助言を行っていただいた。更に、2002年からは同審議会の会長に就任いただくなど、本県の環境行政の推進に多大な貢献をされている。<br><br>この間、本県環境行政の基本方向を示す「新奈良県環境総合計画」の策定、環境影響評価法に基づく京奈和自動車道(大和北道路(仮称))の建設に係る知事意見形成などについて、長年の経験と持ち前の調整力を活かし審議会意見のとりまとめにご尽力をいただいた。<br><br>さらに、県内の奈良市、大和郡山市、桜井市などの環境審議会会長にも就任され、県下の広範囲にわたり、地域の環境保全行政の推進に多大な貢献をされている。<br><br>その他に、県が委嘱する環境アドバイザーとして県民の環境学習の講師も務め、県下の市町村から依頼を受けて市民環境講座などで活躍されている。<br><br>また、全国ワーストの汚名を持つ大和川の水質浄化をすすめるため、市民団体と共に「大和川市民ネットワーク」の設立にも携わるなど、幅広い分野で活躍されている。<br><br>このように、本県の環境に熟知され、長年にわたり本県の環境行政の推進に貢献した多大なる業績は、表彰に値するものである。 |
| 島根県 | 和田　松治<br>わだ　しょうじ<br><br>畑ヶ中2子ども会エコクラブサポーター会代表 | 平成7年に自らが中心となり「畑ヶ中2子どもエコクラブ」を結成し、子どもたちとともに地域の環境保全に取り組んでいる。<br>平成9年からは、地域内を流れる銀山川の水質や水生生物の調査、ヨシの浄化作用調査など、地域の生態系や自然環境に関する調査をを行っている。平成14年からは、地元自治会の各家庭の$CO_2$排出量と樹木による吸収量を調査し、その結果をとりまとめ配布するとともに、排出量が上回っている家庭に植樹を推進するなど、地域に密着した温暖化防止への取組も行っている。また、地元久利町の文化祭にて、環境保全活動の調査結果を展示するなど、環境保全に関する情報発信も積極的に行っている。<br>子どもエコクラブのサポーターとしてだけでなく、平成17年からは県内の小学校に出向き、水質保全(河川の水質調査)や温暖化防止(樹木の吸収量調査、環境家計簿)についての体験学習を行うなど、環境学習活動にも取り組んでいる。<br>地域の子どもたちに環境に関する熱心な指導を行うとともに、大人も巻き込んだ環境保全へ取組を実践しており、その功績は大きい。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 岡山県 | 榎本　敬<br>えのもと　たかし<br><br>岡山大学資源生物科学研究所 准教授 | 岡山大学資源生物科学研究所において、野生植物の種子の収集と分類に関する研究、岡山県の水生植物の分布に関する研究を行っている。<br>岡山県版レッドデータブック掲載種の選定に当たり、岡山県野生生物調査検討会の幹事として活躍し、同植物部会では野生植物、特に県内有数の草本の専門家として尽力した。<br>岡山県内では野生株は絶滅したと考えられていたミズアオイ野生株の発見者。その後保護活動に熱心に取り組んだことで生息地が守られ、倉敷川のミズアオイは県内唯一の自生地として平成16年に岡山県希少野性動植物種に指定された。同年の岡山県希少野生動植物保護条例の施行に際しても、同条例によるミズアオイの保護専門員に就任し、ミズアオイについては自ら生育環境の整備を行い、地域住民と協力して保護組織を立ち上げるなど、希少野生生物保護の取り組みを継続している。<br>倉敷市、岡山市など県内市町村の自然調査、生物目録の作成に協力し、地域の自然環境の把握に尽力している。<br>また、倉敷市立自然史博物館協議会委員や自然史博物館友の会会長、倉敷の自然をまもる会副会長として、地域の自然環境の解説者となり、生物多様性保全意識の啓発に努めた。ミズアオイの観察会等を企画するほか、地元小学生の総合的な学習の時間にミズアオイを紹介するなど、自然保護思想の高揚に貢献している。<br>現在、岡山県野生動植物調査検討会植物部会委員として、県内の希少種の調査や保護施策、また外来生物対策に尽力している。<br>主な著書:『雑草の自然史』(共著)、『写真で見る外来雑草』(共著)、『自然への思い　岡山』(共著)<br><br>平成8年(1996)　倉敷地方振興局長表彰(地域環境保全)<br>平成11年(1999) 地域環境保全功労者生活環境部長感謝状<br>平成13年(2001) 地域環境保全功労者知事感謝状 |
| 広島県 | 碓井　悦子<br>うすい　えつこ | 20年以上の長期にわたり，常に生活者の視点で自ら環境保全活動を実践しながら，市民の先頭に立って様々な活動に取り組んできた。氏の主な功績は次のとおりである。<br>昭和60年から呉市消費者協議会理事として環境保全活動に取り組み始め，昭和63年には呉市におけるカレットびん回収活動を開始。カレットびんリサイクルルートの開発を行い，呉市集団資源回収対象品目の指定につなげた。<br>平成3年には「容器と包装を考えるグループ」に従事し，トレーの店頭回収の呼びかけを先頭に立って展開し，後にスーパー5社での店頭回収につなげた。<br>また，平成4年からはマイバッグ持参運動を開始し，多くの講習会で市民に啓発。同時に，袋持参人へのスタンプ制度を事業者へ要請し，4社での実施に至った。<br>トレーの店頭回収活動とマイバッグ持参運動はいずれも広島県初の取組みであり，県内への波及に大きな影響を与えた。<br>平成7年には，「グリーンコンシューマーの輪を広げるグループ」の中心メンバーとして，環境にやさしい買い物に関する啓発情報誌の発行に携わり，以後10年にわたり店舗調査などを通じて事業者の環境への意識啓発にも貢献した。<br>平成12年以降は，市民・企業・行政が一体となって環境保全活動に取り組む団体の設立に関わり，団体の中心的存在として様々な環境保全活動に取組み，成果を挙げている。<br>また，広島県地球温暖化防止活動推進員や環境保全アドバイザーとして，小学校等の校外講師，市民対象の環境啓発講座講師として活躍するとともに，呉市環境審議会委員，同市廃棄物審議会委員などの委員としても貢献し現在に至る。 |
| 広島県 | 特定非営利活動法人　森のバイオマス研究会<br>とくていひえいりかつどうほうじん　もりのばいおますけんきゅうかい<br><br>理事長　　早　田　保　義<br>役員17名　会員150名 | 平成12年に地域の活性化と荒廃の進む森林・里山保全を目的に発足した「七塚プロジェクト」は，森林・里山整備ボランティア活動を開始。その後，森林・里山整備から産出される木質資源をバイオマスエネルギーとして活用することをねらいに「庄原森のバイオマス研究会」として活動を行った。活動の充実とともに平成15年にはＮＰＯ法人の認証を受け，現在まで，森林・里山の保全・整備事業とバイオマスエネルギーを活用した環境にやさしい町づくりを実践することを目的として様々な活動を実施している。具体的には，地域の豊富な森林間伐材等を活用したウッドペレット製造とペレットを燃やすペレットストーブの普及に力を注ぎ，庄原地域のみならず広島県内にわたり理解と普及を進めている。近年では，地域の里山の手入れを始め，イベント・講座への参画，研究会・シンポジウムの開催，バイオマス関連機器の研究開発，国や地方自治体からの調査・研究事業の受託などさらに幅広く活動を続け，循環型社会づくりのみならず，農林業の再生の啓発活動にも大きく貢献している。これらの普及啓発活動により，平成20年3月現在，県内で230台のペレットストーブが導入され，ペレットにして約330トンのバイオマス需要を創出したことになる。 |
| 徳島県 | 正法寺川を考える会<br>しょうほうじがわをかんがえるかい<br><br>会長　米田　博<br>会員80名 | 平成９年３月の発足以来。アドプト・プログラム吉野川に参画し、毎月１回河川清掃を実施するとともに。野鳥観察や水質調査、ネイチャーゲームを取り入れたエコウォッチングなどを開催している。<br>また、藍住北小学校と連携した体験型環境学習に取り組んでいる。<br>①河川清掃活動<br>②環境学習会の開催<br>③エコウォッチングの開催<br>④学校と連携・融合による子ども学びの場づくり活動・水質検査・野鳥観察・河川観察(ボートによる観察)など<br>⑤子ども体験型環境学習<br>⑥タウン誌「ネットワークあい」での広報、啓発活動<br>など |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 福岡県 | 牛顎ホタル部会<br>うしくびほたるぶかい<br><br>会長　戸渡　慧<br>会員33名 | 昭和60年に大野城市まちづくり懇談会(市民のまちづくり提言の自主組織)より、自然環境の観点からゲンジボタルを核としたまちづくりの提言を受け、環境保全活動を通した自然生物の保護を目的として、大野城市牛顎地区で牛顎ホタル部会を設置し、取組を始める。<br>牛顎川の清掃やホタルの幼虫の餌となるカワニナの補給、増殖、ホタルの幼虫の飼育等の会員(地元住民)による地道な活動により、大野城市内で唯一牛顎川にしか残っていないゲンジボタルの保護、繁殖に努めており、牛顎ダム完成後激減していたゲンジボタルの発生数も徐々に回復している。<br>また、牛顎川の保全のため、カジカカエルの飼育等も行っている。<br><br>長年にわたる会員の地道な活動により、福岡都市圏では有数の「ホタルの名所」となっており、シーズンには毎年2000人くらいの見物客がおとずれる。<br>現地では、会員により、ホタルについての説明や見物マナーの指導、ホタル保護の呼びかけなどが行われ、ホタルの保護に関する普及啓発も積極的になされている。<br>平成17年4月下旬には、県によりカワニナの飼育場が整備されたが、これも牛顎ホタル部会の地道な活動の成果の一つと考えられる。<br>また、特に、地域のために、地域住民が自主的に始めた取組であり、その点でも非常に評価に値する。 |
| 福岡県 | 福津市地域婦人会<br>ふくつしちいきふじんかい<br><br>会長　岩佐　礼子<br>構成員150名 | １．河川浄化について<br>昭和50年代から河川の浄化活動として、食廃油を集め石けん作りに取り組み始めた。<br>その後、衛生組合の支援を受けた石けん製造釜を購入して、本格的に粉・固形石けん作りに取り組み、町民への普及のために、赤ちゃんの誕生祝いとして贈呈した。また、いろいろなイベントで販売している。<br>平成８年には、福間町が新築した「石けん工房」を使用して、「石けんづくり体験教室」を開催して、高校生や町民との交流を通して河川の浄化活動の啓発を行っている。また、石けんにEM菌を添加したり、「又ぜー石けん」「エコぴか石けん」などを付けるなど、その普及のために工夫を重ねている。<br>平成７年度から３年間、福間町補助事業としてゴミ減量化推進パイロット事業を婦人会が主体となって実施して、EMぼかしを使い、生ゴミを肥料に変え、液肥を浄化槽や河川に流すことにより河川の浄化を図っている。さらに、生ゴミ減量化のためのリサイクル活動になっている。補助終了後も継続して活動を行っている。<br><br>２．河川の環境保全について<br>平成３年に婦人会が主体となって「西郷川を守る会」を設立し、西郷川の護岸１kmに渡ってアジサイを植樹して、毎年、草刈りや手入れを行い河川の環境保全に努めている。<br><br>３．その他<br>平成３年からゴミ減量の推進としてマイバッグ運動に取り組んでいる。また、市の分別リサイクルと別に古布、古紙、アルミ缶等の回収に努めている。<br>このように一貫した活動の姿が市民の共感を得、環境の浄化・保全に多くの貢献をしている。 |
| 熊本県 | 環境ネットワークくまもと<br>かんきょうねっとわーくくまもと<br><br>代表　原田　正純<br>構成員280名 | 熊本県内の環境保護活動に取り組む団体や個人をゆるやかにつなぐネットワークとして、相互の情報交換を通して会員や一般市民に各団体の活動紹介や環境情報の提供を行いながら、市民による主体的な環境保全活動の普及に取り組んでいる。講演会や学習会、自然観察会などの啓発活動、県内外の環境ＮＧＯと連携した調査・研究の実施、調査に基づく政策提言、更に行政や企業とのパートナーシップを深める活動等を幅広く展開している。これらの活動を通して環境保全活動の深化と拡大を図り、市民参画を可能にするプロセスを確立するとともに、行政や事業者との協働による持続可能な地域社会の実現を目指している。<br>行動指針と具体的活動内容<br>①環境保護に取り組む個人・ＮＧＯのネットワーク：グリーンコンシューマー活動による商品や企業の環境対策調査、ガイドックの発行、温暖化防止市民会議を立ち上げ、地域独自の温暖化防止行動普及活動を展開している。また、熊本県内初市民共同発電所「かんくまおひさまプロジェクト」を展開し、調査を通して環境に配慮した自治体づくりを支援する10年継続プロジェクト「日本の環境首都コンテスト」を他団体と共に実施している。<br>②市民への環境問題の啓発活動：「教師のための環境学習プログラム」や「参加体験型で学ぶ環境学習」の実施及び「自然観察会」や「棚田での田植え・稲刈り体験プログラム」等を実施している。<br>③行政・企業・ＮＧＯとのパートナーシップ：「熊本市環境総合計画」策定への参加とその推進組織「エコパートナーくまもと」の発足に尽力するとともに、各ワーキンググループ活動へも積極的に参加している。また、ソニーセミコンダクタ九州(株)との共同事業「地下水涵養プロジェクト」を企画し、企業・行政・ＮＧＯ・地元農家との連携による水田涵養事業を実施している。<br>活動の効果として、「かんくま」という愛称で熊本県内外でも認知度が高まっている。行政や企業との信頼関係も深まっており、市民活動と行政をつなぐ中間支援組織としての機能が定着してきている。また、環境都市づくりを目指す自治体から個別の研究会への協力を依頼されたり、毎年、九州地区自治体交流会を実施している。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 熊本県 | 次世代のためにがんばろ会<br>じせだいのためにかんばろかい<br><br>代表　松浦　ゆかり<br><br>役員3名　構成員26名 | 当団体は、次世代を担う子どもたちを中心に考え行動を起こす必要性から、子どもたちへの環境教育の実施及びその方法についての提言や調査研究、普及啓発や交流等を実施することにより、環境教育及び環境保全に寄与することを目的として発足した。市民、行政職員、北九州市立大学准教授、八代工業高等専門学校講師及び学生との民官学の協働・連携のもと、以下の活動を行っている。<br>【かき殻祭り】ホタルが乱舞する川を目指し実施されるかき殻投与による河川浄化活動。河川浄化を通して子どもたちへの環境保護に対する意識啓発と、多数の人々の協働により地域社会の活性化を図る。活動は1000人規模。<br>【ピースろうそくやっちろ版】家庭の電気を消して廃油ロウソクを灯し、環境について考えるイベント。環境３団体による共同主催<br>【水無川一斉清掃】市内を流れる水無川流域で、14小・中学校参加による一斉清掃活動。<br>【新川の日】毎月第３水曜日に新川の清掃活動を八代市立宮地小学校の児童と実施。<br>【環境出前授業】小・中学校の依頼を受け、環境劇・環境クイズ等を取り入れた授業を行う。<br>【「大島」浜辺の大掃除大会】八代市と共催。小学校でごみが海に及ぼす影響についての授業を行い、その後、海岸の清掃活動や宝探しを実施。<br>【ライトダウンinやっちろ】市民が15分間家庭で消灯し家族で語らいの場を持つイベントの企画を担当。<br>【児童による川のごみパトロール隊】八代保健所共催により、市内３小学校と児童と川辺のごみ調べやごみマップを作成し、大人に対してのごみ問題に関する啓発を行う。<br>各種取組を通して、自然の生態系を護ることの大切さや生き物に対する感謝の心を伝える活動になってきた。地域の大人から子どもまで幅広い年齢層のコミニュケーションが図られとともに、自然を愛する子どもの変容を通して、大人の方も変わってきたという声が寄せられている。 |
| 大分県 | 小田　毅<br>おだ　つよし<br><br>環境カウンセラー | 多年にわたり、大分県内の森林植生に係る調査研究を行うとともに、環境カウンセラー及び大分県環境教育アドバイザーとして、これらの研究成果及び専門知識を活かした各種講習会における講演や、自然観察会の指導に従事するなど、自然保護、環境保全意識の普及啓発及び環境学習の推進に尽力している。<br>また、県及び市の環境保全に関する各種審議会委員等として、環境行政の推進に寄与するとともに、大分県版レッドデータブックの作成にあたっては、種子植物の調査に携わり、その完成に大きく貢献した。 |
| 宮崎県 | 綾町水を守る会<br>あやちょうみずをまもるかい<br><br>会長　中原ケイ子<br>構成員約2,200名 | 本会は、町内の①自治公民館婦人部、②地域婦人部、③ＪＡ綾女性部、④商工会女性部、⑤高年者女性部、⑥有機農業婦人部、⑦日赤奉仕団綾支部、⑧自然環境保全審議会委員、⑨石けんづくり指導員の会員で構成し、数多くの動植物の命を育んでいる自然生態系を守り、将来の世代に引き継いでいくことを目的に、水を守る（＝生活雑排水の浄化）運動を推進している。<br><br>夏季の夜間に、町内全地区（２２地区）の自治公民館を巡回して「地区座談会」を開催し、「水といのち」の問題をテーマにした環境ビデオを上映したり、廃油から固形セッケン、粉セッケンを作ったり、米のとぎ汁のＥＭ発酵液、ＥＭボカシづくり等を実演・指導するなど、生活雑排水の浄化に係る知識の普及に尽力している。<br><br>また、町内の小学校に出向き、米のとぎ汁のＥＭ発酵液づくりの実習を指導したり、アクリルタワシの作成を実演・指導するなど、次の世代の担うこども達に対する環境教育も推進している。<br><br>さらには、会員が作った米のとぎ汁のＥＭ発酵液を、イベントへの来場者や町内の事業者に無料で配布したり、会員が実際に排水溝等へ投入するなど、生活雑排水浄化の実践活動に積極的に取り組んでいる。 |
| 仙台市 | 長谷川　信夫<br>はせがわ　のぶお<br><br>東北学院大学名誉教授<br>仙台市廃棄物対策審議会会長 | 昭和56年から現在までの27年間，仙台市廃棄物対策審議会（平成4年に仙台市清掃事業対策協議会から名称等変更）の委員として，本市における廃棄物の減量及び適正処理の推進にご尽力いただいている。<br>平成4年からは同審議会副会長として，平成10年からは同審議会会長として，缶・びん・ペットボトル等資源物分別収集体制の整備，仙台市一般廃棄物処理基本計画の策定，家庭ごみ等収集業務の民間委託，粗大ごみ戸別有料収集制度の導入など，本市における廃棄物処理体制の整備にあたり同審議会における議論の取りまとめの中心的人物としてご尽力いただいた。近年は，家庭ごみ等受益者負担制度（家庭ごみ等有料化）の検討にあたり，多種多様な意見を的確にとりまとめ，意見書「定日収集生活ごみの処理費用の負担のあり方とごみ減量・適正処理施策の推進方向について（平成19年6月）」を市長に提出するなど，円滑な制度の導入に向けて多大なる貢献をしていただいたところである。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 横浜市 | 長津田小学校野草園スクールボランティア<br>ながつたしょうがっこうやそうえんすくーるぼらんてぃあ<br><br>代表者　金丸和代<br>構成員22名 | 宅地造成に伴い、玄海田（現横浜市緑区長津田みなみ台）にあった植物（樹木、野草、シダ類等）を保護し、育成、保存していくとともに移植先である横浜市立長津田小学校の環境教育活動に貢献している。　また、緑区小学校理科研究会への講義を通じて先生方の研修に貢献している。<br><br>【19年度横浜環境活動賞を受賞しての感想から】<br>玄海田から長津田小学校へ植物の移植を行ったのは、17年前のちょうど今頃でした。　当時の玄海田一帯は雑木林で、沢山の野鳥や小動物が住み、谷戸を形成していましたが、宅地造成でそれらが失われようとしていました。<br>移植を認めてもらい実行するのは、試行錯誤の連続でした。校長先生やＰＴＡの会長さんに相談したり、許可を得たり、植物学会の先生方にも御協力や御指導を賜りました。<br>作業は有志30人ほどで行いました小学校の荒い土を耕し、腐葉土を混ぜて、山と同じ環境をつくりました。朝10時から玄海田で植物を採取し、お弁当を食べ、午後は小学校で移植という毎日が3ヶ月続きました。これが「野草園」の原型です。<br>長い活動の中では、ボランティアの人数が減って苦労を伴う時期もありましたが、緑区の稀少な植物を保護しているという自負もあり、保全に努めてきました。今では児童の学習にも活用され、長津田小学校のシンボルといってもいい存在です。<br>これからも、ここを維持することで子どもたちが長津田の豊かな自然に気づき、次の世代へ残してくれることを願っています。 |
| 名古屋市 | 武田　明正<br>たけだ　あきまさ<br><br>三重大学名誉教授 | 平成10年8月、名古屋市環境影響評価指導要綱に基づく環境影響評価審査委員に就任後、引き続き、名古屋市環境影響評価条例に基づく環境影響影響評価審査会委員として、環境影響評価等に関する技術的又は専門的事項について調査審議を行うなど、本市の環境アセスメントの推進にご尽力いただいている。<br>現在、条例に基づく環境影響影響評価審査会委員として５期目（任期：平成19年2月1日～21年1月31日）を迎え、その専門分野（植物）の観点から、貴重な意見を述べていただいており、多年にわたり本市環境行政の推進に多大な協力をいただいている。 |
| 京都市 | 京都市立御室小学校<br>きょうとしりつおむろしょうがっこう<br><br>校長　小宮山　修子<br>生徒数379名　教職員20名 | 京都市立御室小学校では，地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し，全校で教育と実践を通じて環境にやさしい学校づくりに取り組むことを基本理念として，次のような活動を展開している。<br><br>1．地域と連携した「地域清掃活動」の取組<br>ゴミゼロの日（5月30日）を地域清掃活動の日として，地域団体等と連携し，清掃活動を通して地域の環境保全活動を展開している。<br>2．家庭と連携した「リサイクル活動」の実施<br>年間を通じて，アルミ缶や牛乳パックなどの家庭から出る不用品の回収を子ども自身が実施している。<br>3．ビオトープの活用<br>校内に流れる西ノ川を活用して，ため池をビオトープに改修し，環境学習に役立てている。<br>4．生ゴミと枯葉からつくる堆肥を利用した京野菜作り<br>地域の方を講師に招き，生ゴミと枯葉で堆肥を作り，できた堆肥を利用して無農薬で京野菜を育てている。<br>5．全校あげての「節水・節電環境の構築」<br>(1)「電力監視測定器」を設置し，子どもたちがリアルタイムに消費電力・料金等を見ることができ，意識の向上につながっている。<br>(2)自然エネルギーの有効性を実感するために太陽光発電と風力発電の装置を設置。<br>(3)校内に緑のカーテンを設置し，気温上昇を緩和するとともに，その学習で環境保全の大切さを実感できる。<br>(4)独自の雨水タンクの設置などにより，雨水を栽培活動等に活用。<br>6．全ての児童・教職員，さらには地域で取り組む「環境宣言」の作成<br>環境を身近な問題として捉え，児童・教職員等の環境保全に関する意識の一層の高揚を図るとともに，学校教育活動をはじめ，家庭・地域とも一体となった取組を推進するため，基本理念・方針をまとめ，実践している。<br>7．学校全体で取り組む京都市独自の「学校版環境マネジメントシステム（KES学校版）」の認定<br>全ての学校教育活動を通じて，児童・教職員，さらには地域とも連携し，主体的・計画的に環境に配慮した行動を推進するため，京都市独自の学校版環境マネジメントシステムの構築に取り組んでおり，認定を受けた。<br>8．家庭における具体的な取組を進める「子どもエコライフチャレンジ」の実施<br>NPO団体と連携し，夏休み前に地球温暖化や環境保全などについて事前学習をして，夏休みに家庭で子ども向け環境家計簿に取り組んだ。<br><br>環境保全に向けた地域清掃活動をはじめとする様々な同校の取組は，地域の環境保全に大いに貢献するとともに，その誠意のこもった活動が奉仕活動の模範として地域に多大の波及効果をもたらしている。<br>これらの活動が結実し，「京都府環境保全功労者表彰」の受賞や「KES学校版環境にやさしい学校」の認定につながるなど，本賞を受けるに足る素晴らしい環境保全活動の実践と認めるものである。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 大阪市 | 特定非営利活動法人　大阪環境ｶｳﾝｾﾗｰ協会<br>とくていひえいりほうじん　おおさかかんきょうかうんせらーきょうかい<br><br>理事長　高井　茂<br>会員数約140名 | 特定非営利法人大阪ｶｳﾝｾﾗｰ協会(以下、ｶｳﾝｾﾗｰ協会)は、構成員が環境カウンセラーとしての知識、技能、経験をもとに、大阪市・大阪府を中心に市民団体や自治体、教育機関等とも協働しながら、環境に関する普及啓発活動に積極的に取り組んでおり、特に地球温暖化防止活動の取り組みの一つとして、小中高校向けに「温暖化出前授業」や市民・教師向け「省エネ移動実験教室」など環境教育を継続して実施し、環境イベントへ継続して参画し、子どもたちや市民に地球温暖化防止に関する理解を深めるのに非常に役立っていることは高く評価されている。<br>　また、大阪市の環境保全関連事業である「なにわエコライフ」や「市民環境調査隊」、「なにわエコ会議」については、企画・設立段階やモデル事業の段階化から参画・協力し、本格実施後も取り組みを継続実施しており、市民を中心に地球環境保全活動の推進及び支援活動を行っている。<br>　さらに、環境マネージメントシステム(EMS)の導入支援にも力を入れており、特にエコアクション21(EA21)については、継続して普及啓発に努めており、大阪における中小企業等の自主環境配慮活動の推進に大きく貢献している。<br>　このように、カウンセラー協会の活動は、市民及び企業の地球環境保全に対する意識向上に多大な貢献をしており、本市の環境行政への貢献が顕著である。 |
| 神戸市 | 和田　安彦<br>わだ　やすひこ<br><br>関西大学名誉教授 | 　多年にわたり、神戸市の環境影響評価制度における第三者機関である、神戸市環境影響評価審査会の委員として主に衛生工学（水質・廃棄物）の分野を中心として、厳正な調査審議に尽力されている。<br>　また、環境問題に関する深い理解と幅広い学識をもとに、本市の環境行政に対して有益かつ、先見的な助言をいただいている。 |
| 神戸市 | 奥須磨公園にトンボを育てる会<br>おくすまこうえんにとんぼをそだてるかい<br><br>会長　　河合　信彦 | 　当会は全国レベルのトンボ公園を目指し、環境整備を通じて市民と生きものがふれあい、共生できるまちづくりを目的に平成5年に発足しました。以来、地域の関係諸団体と協力してホタルの育成・観察会やカワニナの放流、奥須磨公園フェスティバル、トンボまつりなどを開催し、地域住民に水辺の保全と環境保全活動を紹介しています。また、啓蒙啓発・地域活動支援として、機関紙「トンボニュース」や、近隣の小学校と協力し、プールのヤゴ救出やホタルの幼虫の観察会、学校ビオトープへのホタルの定着への指導などの環境教育を行っています。その他、自然環境保護にかかわる団体とも交流を行い情報交換・研修会などを開催しています。このような活動を通じて地域住民相互の交流も深まっており、「自分たちの身近な自然は自分たちで守り育てていこう」という地域住民の意識の高揚に大きく貢献し、他団体の模範となっています。 |
| 関東事務所 | 高橋　武男<br>たかはし　たけお<br><br>茨城県環境カウンセラー協会副会長 | 　茨城県環境カウンセラー協会副会長、協会の安定事業の環境教育部会の立上げ、連続講座の開催、出前講座の開催等環境マネジメントの部会の立上げ、企業のISO14001取得の支援、「EA-21」エコアクション２１の支援等、外、協会発展運営の要として今日までご尽力頂く、又、協会外に於いても茨城県環境アドバイザーや外の環境関連要職に就き、活動中。県内小中学校及び市民団体等への環境講師として出動５０回を超える。一方、地域の小学校に隣接する里山を設立、主宰、管理、自然保護、緑の優しさ、昆虫の森、竹細工、炭焼きを手掛け子供達の体験学習の指導に当たっている。近くの茨城県自然博物館 と連携、里山を広く開放、地域社会との交流発展に努める。茨城県緑地保全地域（中矢作周辺）を担当、就任と同時に樹名板取り付け（新聞切り抜き）保全管理及び普及啓蒙活動等、観察会（２回／年）の継続実施、幅広い環境保護の実務、環境学習講義指導と継続的に展開中。県内一円に広げた講演等、里山の設立等体験学習の場、緑地保全等、指導者の職責を十分発揮されている実績、地域密着型の環境教育現場の構築は、環境保全、美しい景観の保護は「文化の伝承であり、学習の場」が自らの信条 、永く、個人、団体の纏め役、その中心的役割は、地道な献身的な努力行動力、実績は、高い評価に値するものと進言致します。 |
| 関東事務所 | 芳村　重徳<br>よしむら　しげのり<br><br>NPO法人杉並環境ｶｳﾝｾﾗｰ協議会　副理事長 | 　とうきゅう環境浄化財団在職中は、多摩川を中心とした河川環境保全のための活動への助成、環境調査、清掃活動、環境副読本の発行・配布などを行なった。また、財団退職後は、東京都の勝沼城跡歴史環境保全地域において、緑地保全活動指導者として小学生に自然体験活動の指導・支援などを行なった。<br>　平成11年、杉並環境カウンセラー協議会の設立に関わり、発足とともに副会長に就任。同会として、杉並区を中心に講習会やシンポジウムの開催、すぎなみ環境博覧会等の行政の環境行事への参加、環境審議会等の委員の派遣等を行なってきた。同会は、平成17年にNPO法人として新たに発足し、平成17年にエコアクション21地域事務局東京中央を開設して、エコアクション21による環境経営システムの普及にも努めている。平成15年から18年まで杉並区環境審議会委員に就任。また、東京環境カウンセラー団体連合会の設立に関わり、同連合会の理事として会の運営に従事し、東京都における広域的な環境カウンセラー活動を推進している。 |

| 県　別 | 氏名・年齢・住所・職業 | 功　　績 |
|---|---|---|
| 関東事務所 | 古澤　良彰<br>ふるさわ よしあき<br><br>NPO法人新潟県環境ｶｳﾝｾﾗｰ協会副理事長<br>NPO法人エコネット上越 理事長 | ① 環境カウンセラー（市民部門）として学校教育面から地球環境の現状、ゴミの削減、緑化活動、自然観察案内などの環境教育を推進した。また、地域において環境市民団体や環境学習応援隊を組織し、組織力を生かした里山整備、グリーン購入推進、エコドライブ講座、学校支援などの活動を展開し、その成果も顕著である。<br>② 平成１５年４月より１７年３月まで環境カウンセラー全国連合会会長より「環境教育・環境学習インストラクター認定審査委員」の委嘱を受け、全国連合会主催の「環境教育・環境学習インストラクター養成セミナー」の企画・資料作成、インストラクター育成に協力した。<br>③ 「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」を受けて、平成１５年１１月、環境教育プロジェクトアドバイザーとして「環境教育・環境学習指導者養成セミナー」新潟市会場の企画及び講師としてその責務を果たした。主な講話内容は、「環境教育の進め方」「自然学習のプログラムの作り方」であった。また、平成１６、１７年エコアクション２１への研修企画、１８，１９年環境教育指導者養成講座の企画及び講師を担当した。<br>④ 環境カウンセラー,樹医博士、教職経験等の実践力を生かして、新潟県地球温暖化防止推進委員、にいがた緑の百年物語地域推進委員、新潟県緑花推進基本計画検討委員、関川水系環境保全協議会代表、上越市環境審議委員、海岸線美化協議会副会長、上越教育大学エネルギー環境教育研究会副会長などの環境行政に参画し成果をあげている。<br>⑤ 実践的な環境保全活動推進を支える研修を進め、日本環境教育学会「市民活動と環境教育」、日本産業教育学会〔技術・家庭科で進める環境教育」について継続研究発表をしている。 |
| 関東事務所 | 環境カウンセラーズぐんま<br>かんきょうかうんせらーずぐんま<br><br>会長　　綿貫　孝司<br>構成員42名 | 1998年に群馬県在住・在勤の環境カウンセラー14名で設立（資料1）以来、環境カウンセラーの資質向上と「市民・事業者・行政の環境パートナーシップ」による環境保全活動の推進に努めて来ました。例会や視察研修を通じて深めた知見を活用し、群馬県地域環境学習推進事業をはじめ、県及び各市の環境フェスティバル等のイベントに参加協力しました。そうした活動が評価され、歴代会長2名がいずれも知事表彰を受けました（資料2,3）。また、会員が県環境審議会をはじめ、地元自治体（前橋、高崎、伊勢崎、藤岡、渋川、安中など）の環境審議会委員として委嘱を受け、専門的実践者として積極的な提言を行っています。また、複数の会員が県環境アドバイザーや地球温暖化防止活動推進員、環境GS推進員として活動するとともに、自治体（高崎、太田、玉村など）の環境基本計画策定に関わるなど、環境行政の推進に貢献し、行政担当者からも頼られる存在となっています。特に最近3年間は県内8市において「環境政策懇談会」を開催し、各市環境担当責任者・担当者から環境行政の現状と課題を伺い、地元市民と行政との意見交換の場を設定しています（資料4～6）。単なる苦情受付の場にならないよう、行政と市民が現状認識と課題を共有し、建設的な意見交換ができるよう配慮するとともに、他市の事例なども参考にしながらよりよい環境政策のあり方を探っています。今後も継続開催し、来年度までに12市すべてで開催する予定です。<br>環境教育の面では、省エネルギーモデル校や環境教育実践校を中心に、協力依頼を受けた学校に会員が出講し、環境教育の推進に協力しています。また、2003年には環境カウンセラー全国連合会との共催で「環境教育・環境学習指導者養成セミナーin群馬」を開催し、環境教育インストラクターを養成しました（資料7）。その経験を活かして、2006年には「環境教育リーダー研修基礎講座inぐんま」の開催に実行委員、講師、スタッフとして協力しました（資料8）。<br>事業者とのパートナーシップについては、2000年に環境庁の環境管理監査普及推進事業に協力したのを契機にエコアクション21の普及に取り組み、認証・登録制度導入以前から登録支援と評価活動を行い、現在県内で75社が認証・登録（都道府県別で9位）されている状況の基礎づくりに貢献しました（資料9）。 |
| 中部事務所 | 篠田　陽作<br>しのだ　ようさく<br><br>環境カウンセラー<br>パークボランティア | 日本自然保護協会の自然観察指導員や環境省のパークボランティアの活動を通して自然保護のみならず、環境の保護についても多くの現場や事例を体験し、自然生態系の保護に関する経験を豊富に持ち、最近は、名古屋市の自然生態園やトンボ池の造成や里地雑木林の管理保全に取り組んでいる。<br>また、小中学校や環境学習センターで環境教育講座や市民向けの環境関連の研修を頻繁に実施したり、環境学習ハンドブックの編纂を行っている。<br>なお、パークボランティアとしては、自然、人文など各分野にわたる専門的な知識を駆使して上高地を訪れた利用者に解説を行うなど、長年(平成20年度までで14年)にわたり意欲的に活動している。パークボランティア組織内ではインタープリテーションの技法などの教授など指導的立場にあり、他のパークボランティアからも人望が厚い。 |
| 九州事務所 | 松浦　茂雄<br>まつうら　しげお<br><br>NPO法人 九州環境カウンセラー協会理事長 | 平成８年環境カウンセラー制度発足と同時に九州一円の環境カウンセラー(事業者部門)に呼びかけ、技術者集団として地域環境保全活動に取り組み、またＩＳＯ１４００１登録支援、内部監査要員育成などに努めてきた。<br>平成１６年度より環境省(当時は環境庁)主催の　環境活動評価プログラム(現在のエコアクション２１）普及セミナーの受託業務を実施、九州域内の協会会員を結集して地域中小事業者の環境経営システムの導入を促進した。爾来１７，１８，１９年度と継続して受託業務を実施し、１８年度、１９年度には地方自治体イニシアティブに協賛して、エコアクション２１（ＥＡ２１）認証取得支援業務を展開してきた。受講事業者は約４００社に及び、認証取得事業者も逐次増加している。<br>他方，日本技術士会九州支部第六部会長として、経営、情報及び環境部門技術士による勉強会や見学会を主査し、いわゆるＣＰＤ活動を展開している。 |